

[研究ノート]

中公新書『佐藤栄作』での 『楠田實資料』の利用について

村井良太

キーワード：佐藤栄作、楠田實、楠田實資料、佐藤栄作官邸文書、出典一覧

はじめに

筆者は、2019年12月に『佐藤栄作一戦後日本の政治指導者』（中央公論新社）を出した。その際、読みやすさの観点から出典の記載は日記と新聞記事を除いて原則として資料名に止め、頻繁に利用した和田純編『オンライン版 楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）』（丸善雄松堂、2016年）については大分類までを記す方式を採った。大分類を示したのはどのような資料群の中にある資料かで内容の傾向がうかがえるからである⁽¹⁾。また、資料によっては前後の記述から資料に行き当たりうるように心がけた⁽²⁾。

その上で、ここでは出版によってページ番号が確定したことを受けて、特に『楠田實資料』について大分類の下資料番号・資料名までを公開する。他の資料についてもページ番号等全て明示することが望ましいことは言うまでもないが、他の文献等は比較的たどりやすく、また『楠田實資料』については他の類書で使われていない箇所の利用が多いと思われるので、このような形とした⁽³⁾。

これによってさらなる関心を持つ読者に有意義な手がかりを提供し、また指摘によっては私の資料の読み間違いや勘違い等質されるべき点も出てくるかも知れない。研究や教育において同資料のさらなる利用の拡大を期

待する思いもある。拙著が『楠田實資料』の豊穡な世界に親しむ一つの手がかりとなれば嬉しい。

同資料については、オンラインデータベース上の一連の解題、和田純『楠田實資料』の背景と全体像、村井哲也「S オペレーションと総理官邸」、村井良太「国内政策—国会答弁、記者会見など国民への働きかけを含めて」、中島琢磨「沖縄返還・日米関係」、井上正也「日中関係」が参考になるが、ぜひ注目すべきは各資料に付された編者・和田氏による「資料詳細」である。資料の遺り方についての基本情報や筆跡の推定、編者注や分類解説など大変貴重であり、特に指摘しておきたい。

村井良太『佐藤栄作』(中公新書) 楠田實資料出典一覧

章	頁	本の中での表記	資料番号等	資料名
第1章	6	『楠田資料』K	K-4-390	「池田前総理の思い出」
第1章	24	『楠田資料』I	I-2-48	「佐藤総理のバックカード編輯主幹(フィラデルフィア・プリティン)に対するインタビュー」
第1章	40	『楠田資料』I	I-2-48	同上
第2章	62	『楠田資料』I	I-2-66	「Jack Anderson の佐藤総理との会見記録」
第3章	113	『楠田資料』	神田外語大学和田純研究室所蔵	未公刊資料
第3章	124	『楠田資料』Y	Y-4-6	『但盡凡心』273頁。
第3章	125	『楠田資料』E	E-1-167、 E-1-169	「ノート『S オペレーション 議事録 1964.1.16～』」「ノート『政策案』」
第3章	128	『楠田資料』E	E-1-46	「[ILO問題は、もっともいい形で結末が…]」
第3章	139	『楠田資料』E	E-1-53	「[田中角栄(午後2時20分～3時…)]」
第3章	139	『楠田資料』Y	Y-3-52	「[16日あさ 大平(阿部)]」
第3章	140	『楠田資料』E	E-1-55	「[残暑お見舞い申し上げます。ことしの初め…]」
第4章	149	『楠田資料』E	E-1-172	「記者会見(第一次案)」
第4章	155	『楠田資料』E	E-1-57	「[お怪我のぐあいはいかがでしようか…]」
第4章	175	『楠田資料』E	E-1-87	「[S オペレーションの運営について、種々]」

章	頁	本の中での表記	資料番号等	資料名
第4章	176	『楠田資料』E	E-1-142	「[S オペが正式に発足してから…]」
第4章	187	『楠田資料』E	E-1-108	「基本問題検討の提案」
第4章	189	『楠田資料』E	E-1-117、 E-1-115	「[新しい勉強会を始めました…]」「第1回勉強会(二月五日瓢亭)」
第4章	198	『楠田資料』E	E-1-129	「青年と語る」
第4章	199	『楠田資料』E	E-1-136	「[宮沢喜一氏から最近の池田派の情勢…]」
第4章	200	『楠田資料』E	E-1-135	「総裁選挙にのぞむにあたって」
第5章	208	『楠田資料』E	E-1-142	前掲
第5章	235	『楠田資料』I	I-2-3	「ロストウ国務次官と総理大臣の会談について」
第5章	246	『楠田資料』I	I-2-19	「[七月十四日ニューヨーク・タイムズ…]」
第5章	247	『楠田資料』I	I-2-30	「佐藤総理キージンガー首相会談(第1回)要旨」
第5章	250	『楠田資料』K	K-3-5	「特別番組 総理と語る 第十五回 明治百年におもう」
第5章	260	『楠田資料』I	I-2-27	「ミソフ元スポーツ青少年大臣との対談」
第5章	267	『楠田資料』I	I-2-33	「総理・ウェス・ガラガー会談要旨」
第5章	270	『楠田資料』I	I-2-38	「『昭和44年度海外経済協力協調運動』国際シンポジウム参加アジア諸国記者11名の佐藤総理大臣に対する表敬訪問の記録」
第6章	291	『楠田資料』I	I-2-45	「佐藤総理、愛知大臣外人記者会見要旨」
第6章	292	『楠田資料』I	I-2-47	「佐藤総理と李厚洛大使会談」
第6章	293	『楠田資料』	神田外語大学和田純研究室所蔵	未公刊資料
第6章	294	『楠田資料』I	I-2-48	前掲
第6章	295	『楠田資料』	神田外語大学和田純研究室所蔵	未公刊資料
第6章	297	『楠田資料』I	I-2-66	前掲
第6章	302	『楠田資料』I	I-2-50、 I-2-52、 I-2-55	「佐藤総理、ウ・タン国連事務総長会談記録」「佐藤総理大臣とヴァン・レネップ OECD 事務局長との会談要旨」「総理・トルドー首相会談(記録)」

章	頁	本の中での表記	資料番号等	資料名
第6章	304	『楠田資料』J	J-9-55	「機中談 参考資料 [繊維問題は…]」
第6章	326	『楠田資料』J	J-11-21	「(別紙)日米首脳会談資料」
第6章	336	『楠田資料』F	F-1-143	「コナリー財務長官との会談(46.11.10)」
第7章	373	『楠田資料』L	L-1-1	「ノーベル平和賞—佐藤前総理のコメント」
第7章	376	『楠田資料』L	L-1-27	「佐藤栄作ノーベル平和賞1974受賞記念講演集」

注

- (1) 村井良太『佐藤栄作—戦後日本の政治指導者』(中央公論新社、2019年)397頁を参照。
- (2) 例えば、同上335頁から336頁にかけての引用「何と言っても問題は基地だ。沖縄は元来やせた土地柄だ。その中で僅かにある平坦な部分がみな米軍基地になっているという沖縄県民の不満は分かってもらえると思う。沖縄における米軍のプレゼンスは抑止力として評価している。しかし、日本本土の施設・区域を整理統合する過程で、それを沖縄へ移したのはどうもまずかった。そんなことならむしろ本土に残しておいて貰った方がよかったのかも知れない」は、ジョン・コナリー米財務長官との会話であることを記している。和田純編『オンライン版 楠田實資料(佐藤栄作官邸文書)』(丸善雄松堂、2016年)で「コナリー」を検索すると、F-1-143の資料であることが分かる。
- (3) 筆者の関連論文として、村井前掲『佐藤栄作』408頁にも掲載している、村井良太『『社会開発』論と政党システムの変容—佐藤政権と七〇年安保』『駒澤大学法学部研究紀要』71号(2013年)、村井良太「一九七〇年の日本の構想—新たな日本への問い掛けに答えて」福永文夫編『第二の「戦後」の形成過程—1970年代日本の政治的・外交的再編』(有斐閣、2015年)、村井良太「佐藤栄作の時代—高度経済成長期の歴史認識問題」五百旗頭薫・小宮一夫・細谷雄一・宮城大蔵・東京財団政治外交検証研究会編『戦後日本の歴史認識』(東京大学出版会、2017年)、村井良太「佐藤政権と革新自治体：七〇年安保前後の東京と沖縄」日本政治学会編『年報政治学2017Ⅱ』(木鐸社、2017年)、村井良太「明治百周年記念事業(一九六八年)の文脈とメッセージ—佐藤栄作首相と戦後日本における『伝統』の選択」吉野作造記念館編『吉野作造研究』14号(2018年)、ならびに同書刊行後に公刊された、村井良太「日米繊維紛争における政治過程の再検討—時間とアイデアを中心に」大矢根聡編『国際関係理論と日本外交史—「分断」を乗り越えられるか』(勁草書房、2020年)を参照。なお本稿は、サントリー文化財団2017・2018年度人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成「楠田實と1955年体制下の自民党政治—文化人/知識人と政治をつなぐ個人・制度・構造」(代表・村井良太)の成果の一部である。記して感謝する。